令和元年産大崎地域の

# 大豆作技術情報 第４号

令和元年１０月２日発行

宮城県大崎農業改良普及センター
TEL 0229-91-0726　FAX 0229-23-0910
http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/

**今後の管理のポイント**
- **雑草や青立ち株の抜き取りを実施し，汚粒発生の防止に努めましょう。**
- **適期刈取を心がけ，刈り遅れにならないよう注意しましょう。**
- **品質低下を防ぐために，乾燥時の温度管理を徹底しましょう。**

## １　気象経過

○最高・最低気温は８月上旬，９月２半旬が平年よりかなり高くなり，それ以外の期間は平年並となりました。

○日照時間は８月上旬，９月２～３半旬が平年より多くなり，それ以外の期間は平年より短くなりました。

○降水量は８月１～３半旬には降雨がほとんどありませんでしたが，８月４半旬に平年より多い降雨があり，その後は適度な降雨がありました。

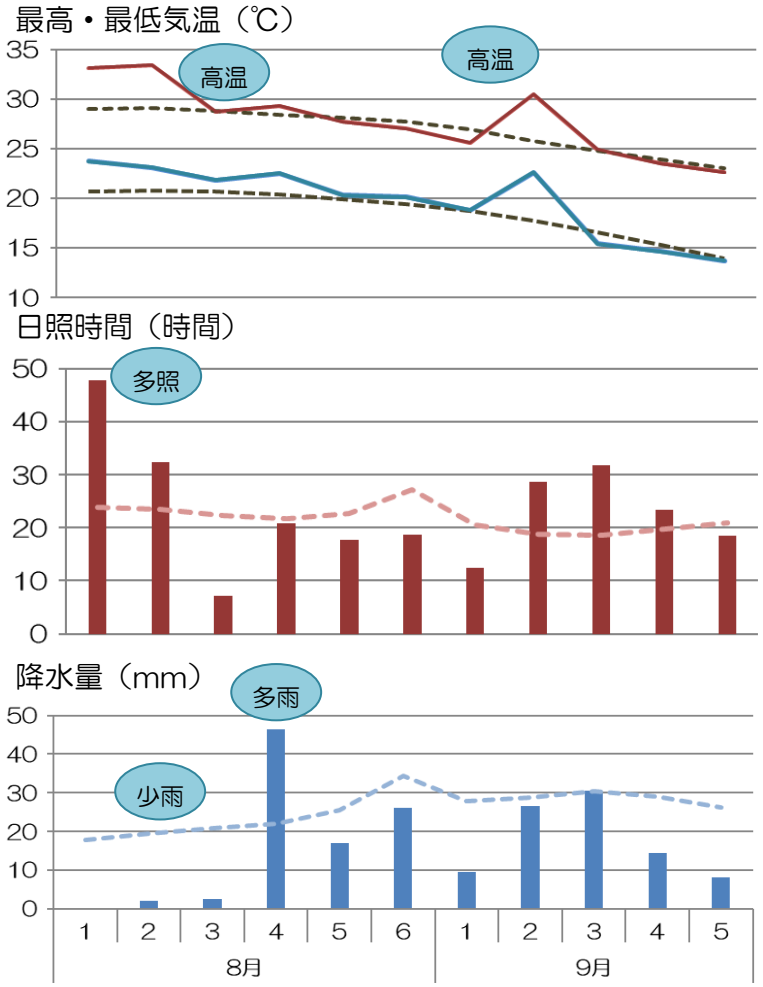


図１　８～９月の気象（点線は平年値）

## ２　生育概況

茎　　長：平年並～平年よりやや短くなりました。
　　→８月の乾燥傾向（多照・少雨）の影響と考えられます。
主茎節数：平年並～平年よりやや少なくなりました。
　　→やや回復が見られたものの，開花期前の生育の遅れにより鈍化傾向にあると考えられます。
分 枝 数：平年より多くなりました。
　　→８月の高温により多くなったと考えられます。

表１　生育調査ほの生育調査結果

| 地区名<br>品種名 | 区分 | 9月4日 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 茎長<br>（ｃｍ） | 主茎節数<br>（節/本） | 分枝数<br>（本/本） |
| 古川<br>タンレイ | 本年<br>平年比 | 62.2<br>97% | 15.2<br>101% | 4.0<br>107% |
| 古川<br>ミヤギシロメ | 本年<br>平年比 | 92.3<br>99% | 17.3<br>100% | 4.5<br>94% |
| 古川<br>きぬさやか | 本年<br>平年比 | 46.3<br>65% | 12.6<br>88% | 3.9<br>113% |
| 中新田<br>タンレイ | 本年<br>平年比 | 68.7<br>89% | 14.7<br>96% | 4.0<br>123% |
| 小野田<br>タチナガハ | 本年<br>平年比 | 71.5<br>96% | 13.6<br>95% | 3.0<br>101% |

※ 平年比は，過去５か年（平成 26 年～平成 30 年）の平均値との比較。ただし，古川きぬさやかは過去４か年（平成 27 年～平成 30 年），小野田タチナガハは過去３か年（平成 28 年～平成 30 年）の平均値との比較。

古川タンレイ

古川ミヤギシロメ

古川きぬさやか

中新田タンレイ

小野田タチナガハ

図２　各調査ほの生育状況（９月４日）

## ３　今後の栽培管理のポイント

### （１）ほ場の確認

〇排水対策：ほ場表面に水が停滞しないように，排水口や暗きょの点検整備などの排水対策を行いましょう。

〇雑草・青立ち株の抜き取り

- 刈取時に水分の高い雑草が残っていると，汚粒の原因となります。雑草は種子が落ちる前に早めの手取り除草を行いましょう。特に，イヌホオズキ等の高水分の果実をつけた雑草は，茎葉が枯れても果実が汚粒の原因になるので刈取前に抜き取りましょう。
- 青立ち株（生育が不揃いで茎葉が青く，落葉していない株）は茎水分が高く，刈取時に子実を汚損する恐れがあるので，刈取前に抜き取りましょう。

**汚粒の原因となる雑草**

タデ類
（オオイヌタデ）

アメリカセンダングサ

ホソアオゲイトウ

イヌホオズキ

**収穫後の難防除雑草対策について**

〇帰化アサガオ類やアレチウリなどの難防除雑草が多発したほ場では，翌年も多発が予想されます。耕起前に**非選択性除草剤の散布**を行いましょう。

〇特にアレチウリ（特定外来生物）は，大豆ほ場での発生が増加しています。周辺での発生がないか注意してください。

帰化アサガオ類

アレチウリ

## （２）適期刈取の実施

○刈取が遅れると品質低下等に繋がるので，適期の刈取を行いましょう。
○刈取適期は，成熟期の１０～２０日後頃とされていますが，天候とほ場状況を考慮しながら行いましょう。
○高水分で刈取しないように，刈取前には子実水分を測定しましょう。

**落葉期**
葉が黄変して落ちる。または手で触って簡単に落葉する。

↓

**成熟期**
（完全落葉後１５～２５日頃）
茎や莢が褐色になり，莢を振るとカラカラ音がする。

↓

**茎水分７０％程度**
茎に緑色が残っている

↓

**茎水分６０％程度**
莢と同色の褐色

↓

**刈取適期**
（成熟期の１０～２０日後頃）
・子実水分１５～１８％
（子実に爪を立てるとうっすらへこむ程度）
・刈取時にコンバインの後ろからホコリが立ち上がる。

**茎水分５０％以下**
茎がやや黒みを帯び，ポキっと軽く折れる，茎の「ぬめり」がとれる

図３　大豆の成熟経過とコンバイン刈取適期

**コンバイン刈取時の留意点**

・子実水分が高いと「つぶれ豆」が発生するため，**子実水分は１５～１８％**
・茎水分が高いと「汚粒」が発生するため，**成熟期以降の茎水分５０％以下**
・刈取時刻の目安は，前日・当日とも晴天の場合，**午前１０時～午後４時頃**です。※前日が雨の場合は作業を控えましょう。
・汚粒発生の大きな要因は「土の掻き込み」です。刈刃が土を掻き込まないように**刈り取りの高さは１０ｃｍ程度**としましょう。
・難防除雑草が繁茂したほ場は，コンバインに種子が付着して，他のほ場に移動させてしまう恐れがあるので，**最後に刈取る**ようにしましょう。

## （３）乾燥作業

〇大豆は粒が大きいため，外側は水分が抜けやすく，内側の水分は外側に移動しにくいという特徴があります。急激な乾燥は，しわや裂皮など，被害粒の発生原因となりますので，品質低下を防ぐためにも温度管理に注意しましょう。

〇ほ場によって子実水分のバラツキが大きい場合があるので，こまめに水分測定を行いましょう。

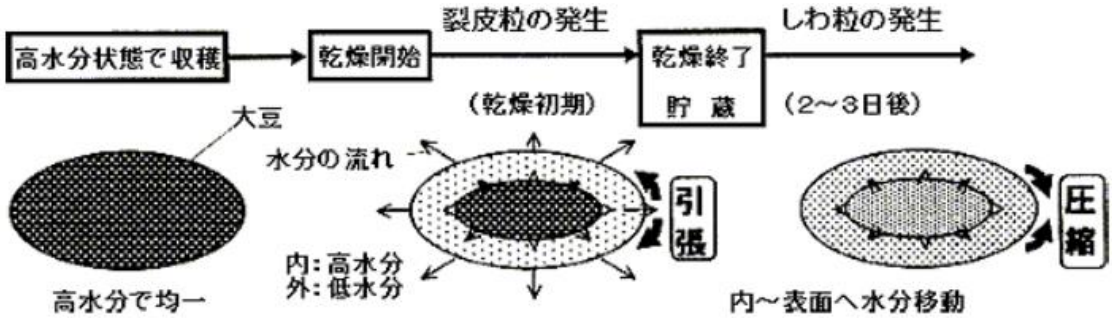


図４　大豆乾燥における被害粒発生機構

**乾燥時の注意点**

- 循環式乾燥機等火力乾燥では，熱風温度を３０℃以下とし，**裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。**
- やむを得ず子実水分 18%を超えるロットを乾燥させる場合は，**熱風温度をさらに低め（常温または 25℃以下）に設定**しましょう。
- 送風温度は，晴天時には常温乾燥（無加温）とし，雨天・夜間は常温＋５℃程度を目安としましょう。
- 仕上げ子実水分は 13%程度（検査基準は 15%以下）にしましょう。

### *～今年産の大豆を振り返ってみましょう～*

刈取りした大豆の中に被害粒がないか確認してみましょう。以下のような被害粒が多い場合，来年産からの病害虫防除を徹底しましょう。

写真１

写真２

写真３

写真４

写真１：紫斑病による「紫斑粒」
写真２：マメシンクイガによる「くちかけ粒」
写真３：フタスジヒメハムシによる「黒斑粒」
写真４：フタスジヒメハムシによる「腐敗粒」

※病害虫の防除時期や防除体系については，「令和元年産大崎地域の大豆作技術情報第３号」をご参照ください。

# 東北地方１か月予報

（９月２８日から１０月２７日までの天候見通し）

令和元年９月２６日

仙台管区気象台　発表※抜粋

＜予想される向こう１か月の天候＞

向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と，特徴のある気温，降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう１か月の平均気温は，高い確率７０％です。

週別の気温は，１週目は，高い確率８０％です。２週目は，高い確率５０％です。３～４週目は，高い確率５０％です。

＜向こう１か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率（％）＞

| | | 低い(少ない) | 平年並 | 高い（多い） |
|---|---|---|---|---|
| 【気　　温】 | 東北地方 | １０ | ２０ | ７０ |
| 【降 水 量】 | 東北地方 | ３０ | ４０ | ３０ |
| 【日照時間】 | 東北地方 | ３０ | ４０ | ３０ |

＜気象経過の各階級の確率（％）＞

| | | 低い | 平年並 | 高い |
|---|---|---|---|---|
| １　週　目 | 東北地方 | １０ | １０ | ８０ |
| ２　週　目 | 東北地方 | ２０ | ３０ | ５０ |
| ３～４週目 | 東北地方 | ２０ | ３０ | ５０ |

＜予報の対象期間＞

１　か　月　　９月２８日（土）～１０月２７日（日）

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（９月１５日～１１月３０日）◆◆◆◆◆

機械の操作ミス，過信と慣れによる安易な作業が重大事故に結びつき，依然として農作業死亡事故が発生しています。ゆとりをもった正しい操作により事故を未然に防ぎましょう。

重点推進テーマ　「まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全」